

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2492800095		
法人名	社会福祉法人 司会		
事業所名	グループホーム こかげ		
所在地	三重県度会郡度会町棚橋198		
自己評価作成日	平成 28 年 2 月 10 日	評価結果市町提出日	平成28年4月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigvosvoCd=2492800095-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 28 年 3 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の周りは自然が多く、山や川に囲まれ空気も澄んでおり生活するにはとても良い環境である。近くには中学校や保育所があり散歩中にも挨拶を交わせる良い関係となっている。また職員はほとんどが町内の方なので入居者様と地域の事を話題にし会話をしている為、昔の情景を思い浮かべながら懐かしむことが出来る。いつも笑いのある家庭的な雰囲気である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅とお茶畑に囲まれた閑静な場所に立地しており、同敷地内に併設しているデイサービスと連携・協力を図っている。周辺には保育園・中学校があり、日々子どもたちの声や様子が癒されながら生活している。近隣の住民と散歩中に挨拶を交わしたり、積極的に地域行事に参加する等、地域交流が行われている。天候や利用者の希望や体調に合わせて、暖かい日には散歩や日光浴をしたり、さまざまな外出行事が計画されており、室内ではトランプやゲームをしたり、その方らしく過ごせるような工夫がされている。管理者・職員は、利用者が今までどおりの生活が継続できるように、共に楽しみながら、笑顔で支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時に唱和し、いつも目に触れる位置に掲示している。法人の理念である為、現在当施設独自の理念を検討中。	本年度になって法人理念以外に全職員で意見を出し合い事業所としての理念を策定、唱和・共有し実践に繋げている。理念を家族及び来訪者の目に付きやすい玄関に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や保育所のイベントなどに参加することで交流を行っている。できるだけ屋外に出る機会を設け園児や学生、近隣の方々と挨拶や会話ができるようにしている。	散歩などで挨拶や会話を交わしたり、地域行事や保育園のイベントに参加しながら、利用者が地域の人たちと触れ合えるような雰囲気づくりを心がけている。民生委員の見学受入れもしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議や満足ケア会議に参加することで認知症の方の理解を深める機会にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回現状報告や生活の様子を写真を提示しながら伝えている。又家族様や地域の方々からの要望や意見を聞き情報交換ができるようにしている。	町職員、包括支援センター職員、保育所長、区長、民生委員、家族等の出席により、年6回定期的に開催されている。事業所の現状報告・行事報告・事故報告を行い、出席者からの要望や意見を聞き、情報交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入退居の報告や施設内の現状を伝えることで実情を把握して頂き助言をもらう等の協力関係を築けるよう努めている。	日頃から、書類の提出や更新手続きで訪問している。報告・相談など、随時連携しながら協力関係が築かれている。満足ケア部会(ケアネットワーク会議下部組織)の研修会にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実践を通じて身体拘束を理解し、常に職員間で意見交換をしている。現在、身体拘束は一切行っていない。玄関についても施錠は行っていない。	管理者や職員は、身体拘束や虐待の弊害を理解し、申し送り時に情報共有や意見交換を行っている。入居時に利用者や家族には身体拘束はしないこと、例外三原則について説明している。玄関の施錠も含め身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	業務をこなしていく中で、何気ない言葉や態度、ケアの方法について話し合い虐待に繋がらないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表者が権利擁護推進員養成研修を修了し、管理者及び職員に対して、業務の中で指導している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には全ての内容を読み上げて説明を行い、不明点や疑問点を確認の上で同意書に記入をして頂いている。また、契約後も常時相談を出来る体制を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加をお願いし、意見を頂いている。また、意見箱を設置して、常に意見を頂ける体制を整えている。	多くの家族は月1回以上は来訪するので、その際に意見や要望をよく聞いている。また「こかげ便り」は利用者毎に作成し、日常の様子を伝えて、気軽に相談出来る雰囲気づくりを心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時及び月1回開催のミーティングにおいて、意見交換や検討を行っている。	毎月1回のミーティングで何事でも意見交換を行い、出された意見や提案は運営に反映させている。また日常の問題や疑問点は、適時話し合いを行い検討するなど、良い職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者を通じて業務状況や実績を把握し、要望を確認している。状況に応じて法人本部と意見交換を行い、各種整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人内での研修に参加し感染症等の知識を高めている。又、法人外での研修についても意識改革の為に取組んでいきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修会・講習会や会議の場を通じて同業者と交流できるよう参加し、情報交換を行いサービス向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その時点での困りごとや入居後の要望等を十分に話し合い、安心して生活できる環境を作るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの生活の中や入居時、入居後の不安や困りごとをその都度話し合い細かいことでも密に連絡を取るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活状況を把握し、何が必要かを家族様と入居者様の視点で考え安心してサービスを受けることができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする中で、教え合ったり助け合ったり又、励まし合ったりしながら良い関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と細やかに連絡を取り合っ、今の状況がわかるよう努めイベントや病院受診を協力して頂く事によって、利用者様を共に支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に積極的に参加したり、自宅のある地区のサロンに出掛けたり散歩等して馴染みの方との交流が出来るよう努めている。	月1回、地区のサロンに出かけ会話を楽しんだり、地域の芸能発表会に参加している。文化祭には利用者の作品を出展して、馴染みの方と継続的な交流ができる様に支援している。個別の外出、外泊は家族が対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の特徴を把握し、気持ち良く生活でき、他の入居者様とも良い関係が築けるよう常に見守り又間に入って支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に、ご家族様にその後を尋ねたり、言葉をかける事によって、状況を確認している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から会話の機会を設けるよう努め、会話の中から入居者様の思いを引き出したり、家族様の面会時に話す入居者様の本音を聞かせていただいたりしている。	会話の中から一人ひとりの思いや、暮らし方の希望・意向を把握するように努めている。会話困難な方は、面会時に家族から聞いたり、関係者から生活歴等の情報を得て検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を入居者様や家族様から聞き取り、アセスメントシートを活用し情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の居所での生活状況や心身状態、能力等聞き取り現状を把握しこれまでの暮らしに少しでも近づけるよう環境を整える。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃からの生活状況を観察し、その都度話合ったりケアカンファレンスにて検討する。又本人様、家族様、必要に応じて協力医に意見を求め介護計画を作成している。	日頃から利用者の状況を細かく観察し記録し、月1回カンファレンスを開き、モニタリングを行っている。ケアプラン見直しは3ヶ月毎に実施、本人・家族・協力医等の要望や意見を反映させて、ケアプランを検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子を細かく記録に残し、振り返っても状況が把握できるようにしている。申し送り時に業務日誌を読み毎日情報共有し話し合い見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内外での交流を積極的に実施し、地域との関わりの中で精神的安定を図っている。又、これから外部からの訪問等も実施していく予定となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や文化祭への出品と見学、保育所のイベント見学や定期的な民生員の来訪等交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を希望された場合は継続できるよう配慮している。施設協力医の往診時には情報提供し、専門外医療が必要な場合は適切な病院を紹介してもらっている。	協力医が往診・定期検診・夜間往診に対応しており、利用者1名が、入居前からのかかりつけ医を受診している。他科への受診は、家族同行が基本であるが、急な受診等は家族と連絡をとり職員の同行支援も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療を必要としている入居者様に対して非常勤看護師が来ている。介護士は日頃の関わりの中で気づいたことを看護師に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に面会を行い、その都度状態把握できるよう情報を得ている。家族様とも何か変化があれば連絡を取り合えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に関しては、ご家族様に説明を行い、必要であれば協力医と直接話をする機会を設けている。その上で、事業所・家族・医師が連携して支援に取り組んでいる。	看取りを希望する家族もあり、看取りをした例はないが、協力医が重度化・終末期と判断した時点で家族に説明し、今後の意向を確認する。職員・家族・医師・看護師等が方針について話し合い、連携して支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・緊急時には、管理者や公的機関に連絡を行い、指示に従い行動するよう指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、非常時に行動できるようにしている。また、運営推進会議を通じて区長様に協力をお願いしている。	9月に初期消火・通報及び誘導訓練を実施しており、3月に夜間想定、一人体制訓練を計画している。2月末にスプリンクラー設置工事が完了している。これまで訓練に消防署が参加したことはない。	防災訓練には消防署との連携を密にされるとともに、緊急事態に対し適切な応急手当を行えるよう全職員が交代で救急救命講習を受講する等、知識と技術の習得を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人間としての尊厳を大切に言葉かけに注意している。	一人ひとりの人格の尊厳を大切に、言葉かけや対応に配慮しながら、自由な生活行動を妨げない支援に努めている。個人情報の取り扱いに配慮して、「こかげ便り」の写真にマスキングを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中の場面場面で入居者様が簡単に答えられるような内容で言葉を選びながら希望や思いを引き出すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	動作が緩慢になったり止まってしまってもゆっくり焦らせることのないよう待つ姿勢で対応し、生活のリズムを崩さないよう注意しながら希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備や起床時には、ご利用者様と相談しながら衣類を決めている。散髪は2ヶ月に1回実施しており、希望者には毛染めも行っている。入浴後に化粧をされる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下処理や盛り付けなど職員と一緒に実施している。入居者様の馴染みの茶碗や湯呑、箸を使用している。	献立作成・栄養管理・食材購入は外部委託し、調理は職員が交代で行っている。家で使っていた食器を使用したり、行事食は特別メニューを取り入れる等、食事を楽しめる工夫をしている。利用者の状態に合わせて、ミキサー食対応もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を記入しチェックしている。キザミ、ミキサー、トロミなど必要に応じて対応し盛り付け方も工夫している。水分の摂りにくい方には他の物を提供し水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、義歯洗浄や歯磨きを声掛けや見守りにて実施している。必要に応じて歯科往診にて口腔ケアを実施してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握して失敗のないよう声掛け誘導を実施している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の失敗がないように声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立が継続出来るような支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日水分摂取量を測り不足していないかチェックしている。日中は皆で体操を行い身体を動かしている。便秘傾向の方はその都度協力医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調に合わせて週2回の方と希望に沿って週3回入浴されている方がいる。入浴時間は自由ではないが月曜日から土曜日まで9:00～15:00となっている。	日曜日以外の午前・午後に入浴するが、希望により週2～3回入浴しており、可能な限り同性介助を行っている。拒否される利用者には入浴を楽しんでもらえるように工夫している。一般浴が困難な利用者は、併設デイサービスの機械浴を利用することが出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前の生活を継続しつつ体調管理を行いながら支援している。夜間眠れない方は日中の過ごし方を工夫したり畳コーナーを利用して休息をとっている。安眠・休息を促すために照明やエアコンを使用し、環境を調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に職員は薬情を見ることができるようになっている。変更があれば記録に残し経過観察に努めている。又誤薬などないよう工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干したり畳んだり、食事の準備をすることで役割を持って過ごせる場を設けている。外出や行事に参加することで楽しみや気分転換となるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外へ出かけたい希望があれば、都度職員が付き添って出掛けている。全て希望通りの場所に出掛ける事は難しいが、ドライブの時や、家族の支援を受けて希望の場所に出掛けるようにしている。行事はなるべく外出の機会を作るよう計画している。	暖かい日には周辺を散歩したり、玄関前で日光浴やお茶を楽しんでいる。利用者の希望を聞きながら、外食や初詣・イチゴ狩り・季節の花見等を計画し、外出支援に取り組んでいる。家族と定期的に外出される利用者もみえる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、施設にておこずかいとして預からせていただいている。希望に応じて所持している方もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在希望される方はいないが、希望時には対応していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、入居者様と一緒に清掃を行い、食堂には職員や家族様の家でとれる花を持ってきてくださったり、施設で咲く花を季節ごとに飾っている。冷暖房や加湿器等を利用して居心地の良い空間を心がけている。	昼はほとんど食堂兼ホールで過ごす。木の温もりが感じられ居心地がよい。職員や家族が持って来た季節の花を飾ったり、利用者と職員と一緒に作った折り紙や貼り絵を掲示して、生活感や季節感を採り入れている。数か所に加湿器を設置して温度や湿度を保ち、健康管理に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時は所定の椅子に座られているが、それ以外の時間は自由に移動され気の合った方同士が集まり楽しんでおられる。また畳コーナーで昼寝をされる入居者様もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の馴染みの家具や使い慣れた物を持ち込んでいただくよう家族様に協力して頂いている。	エアコン・クロゼットは事業所で設置されている。使い慣れたベッドや日用品が持込まれ、家族の写真等を飾り、居心地よく過ごせる部屋になっている。写真をパソコンで似顔絵風にして入口に飾り、部屋の目印にもなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に貼り紙で印をつけている。徘徊される方の安全の為にシルバーカーの置き場所を工夫している。		